（７）　キャベツ

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除 防除時期	RACコード	薬剤
1 株腐病 *Thanatephorus cucumeris*	1.床土は排水のよい無病のもの使う。 2.苗床の温度変化に注意し、急激な温度変化を避ける。 3.換気をよくし、床内を乾かす。 4.被害葉を除去し、処分する。	定植前	29	フロンサイドSC
		発生初期	1	トップジンM水和剤
			2	ロブラール水和剤
			7	モンカットフロアブル40
			7	アフェットフロアブル
			7	カンタスドライフロアブル
			7	パレード20フロアブル
			7	ネクスターフロアブル
			7	カナメフロアブル
			11	アミスター20フロアブル
			11	ファンタジスタ顆粒水和剤
			12	セイビアーフロアブル20
			14	リゾレックス水和剤
			7･M5	（混）ベジセイバー
2 萎黄病 *Fusarium oxysporum* f.sp. *conglutinans*	1.抵抗性品種を導入する。 2.連作を避ける。 3.発病株は早期に処分する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.消毒方法はⅢ－14．土壌病害虫の防除の項参照。	定植前	－	ガスター微粒剤
			－	バスアミド微粒剤
3 黒腐病 *Xanthomonas campestris* pv. *campestris*	1.連作すると多発するので、アブラナ科以外の作物と最低２年輪作する。 2.発病株を除去し、収穫後の残茎葉は集めて土中に埋める。 3.排水を良好にする。 4.病原細菌は害虫（キスジノミハムシ、ヨトウムシ類等）の加害傷口から侵入するので、害虫を防除する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** ●初発から３～４回 1.苗床では初発から２～３回散布する。 2.マスタピース水和剤は夏場は冷蔵庫保存（10℃以下）する。	定植時	P2	オリゼメート粒剤
		初発から３～４回	25	アグレプト水和剤
			U18	バリダシン液剤５
			M1	コサイド３０００
			M1	ドイツボルドーA
			M1	Zボルドー
			M1	クプロシールド
			M1	オキシンドー水和剤８０
			M1	キノンドー水和剤４０
			M1	キノンドーフロアブル
			M1	キノンドー顆粒水和剤
			M1	ドキリンフロアブル
			M1	ヨネポン水和剤
			24･M1	（混）カスミンボルドー
			24･M1	（混）カッパーシン水和剤
			31･24	（混）カセット水和剤
			40･M1	（混）フェスティバルC水和剤
			－(生)	（生）マスタピース水和剤
4 菌核病 *Sclerotinia sclerotiorum*	1.発病株は早期に発見し、菌核ができる前に抜き取って圃場外で処分する。 2.夏期に湛水可能な圃地は高温時に20日以上湛水すると菌核が死滅するので、有効である。	播種または定植前	29	フロンサイドSC
		発病前から	1	トップジンM水和剤
			1	ベンレート水和剤
			2	ロブラール水和剤
			2	スミレックス水和剤
			3	オンリーワンフロアブル
			7	カンタスドライフロアブル
			7	アフェットフロアブル
			7	パレード20フロアブル
			7	ネクスターフロアブル
			7	カナメフロアブル
			11	アミスター20フロアブル
			12	セイビアーフロアブル20
			10･1	（混）ニマイバー水和剤
			1･M5	（混）ダコレート水和剤
			11･7	（混）シグナムWDG
			7･M5	（混）ベジセイバー

キャベツ

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除 防除時期	RACコード	薬剤
5 べと病 *Hyaloperonospora brassicae*	1.窒素質肥料の過用や肥料不足を起こさないよう、適正施用をする。 2.リン酸が少なく、カリの多い畑に発病が多い。 3.排水を良好にする。 4.発病株は早期に処分する。 5.収穫後の病茎葉は集めて土中に埋める。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.シトラーノフロアブルは黒腐病にも登録がある。	初発から３～４回	21	ライメイフロアブル
			21	ランマンフロアブル
			M1	ヨネポン水和剤
			M3	ジマンダイセン水和剤
			M3	ペンコゼブ水和剤
			M3	ペンコゼブフロアブル
			M5	ダコニール１０００
			M3･4	(混)リドミルゴールドＭＺ
			4･M5	(混)フォリオゴールド
			11･7	(混)シグナムＷＤＧ
			7･M5	(混)ベジセイバー
			21･49	(混)ゾーベックエンテクタＳＥ
			40･M3	(混)カンパネラ水和剤
			40･M5	(混)プロポーズ顆粒水和剤
			45･40	(混)ザンプロＤＭフロアブル
			M1･M5	(混)シトラーノフロアブル
		発生前～発生初期	49･40	(混)オロンディスウルトラＳＣ
6 軟腐病 *Pectobacterium carotovorum*	1.抵抗性品種を用いる。 2.４～５年輪作にし、イネ科、マメ科の作物を作る。 3.排水を良好にする。 4.窒素肥料の過剰施肥を避け、適正施肥をする。 5.収穫後の病茎葉は集めて土中に埋める。 6.早播きのものは防虫ネットで被覆する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.病原細菌は害虫（キスジノミハムシ、ヨトウムシ類等）の加害傷口から侵入するので、害虫を防除する。	本葉９～10枚のころから２～３回	31	スターナ水和剤
			U18	バリダシン液剤５
			M1	Ｚボルドー
			M1	オキシンドー水和剤８０
			M1	ドキリンフロアブル
			M1	ヨネポン水和剤
			31･24	(混)カセット水和剤
			24･M1	(混)カスミンボルドー
			24･M1	(混)カッパーシン水和剤
7 根こぶ病 *Plasmodiophora brassicae*	1.苗床は無病な土を使用する。 2.前年発生したところでは連作を避け、アブラナ科以外の作物との３年以上の輪作をする。 3.石灰窒素を施用し、土壌の酸度を６以上に矯正する。 4.圃場の排水を良好にし、低湿地や排水不良地での作付けを避ける。 5.発病株は根部を含めて完全に除去する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.土壌消毒方法はⅢ－14．土壌病害虫の防除の項参照。 2.ランマンフロアブルは活着のための散水時に使用できる。	土壌消毒	－	ＮＣＳ
			－	ガスター－ド微粒剤
			－	バスアミド微粒剤
			－･－	(混)ディ・トラペックス油剤
		は種前(苗床)	21	オラクル粉剤
		播種または定植前	29	フロンサイド粉剤
			29	フロンサイドＳＣ
			36	ネビリュウ
			36	ネビジン粉剤
			M5	ダコソイル
		定植前	21	オラクル顆粒水和剤
			21	オラクル粉剤
		定植前日～当日	21	ランマンフロアブル
8 黒斑病	1.発病株を除去し、収穫後の残茎葉は集めて土中に埋める。 2.排水を良好にする 3.適切な肥培管理を行う。	発生初期	7	カンタスドライフロアブル
			11	アミスター２０フロアブル
			11	ファンタジスタ顆粒水和剤
			11･7	(混)シグナムＷＤＧ
9 ふち腐れ、心腐れ症	1.過乾過湿を避ける。 2.窒素質、カリ質肥料の過剰施用を避ける。 3.石灰質肥料を基肥に十分施用する。 4.本葉７～８枚時に石灰を含んだ葉面散布剤に展着剤を加えて散布する。 5.アグリメイトを結球するまでに新葉、結球部によくかかるように７～10日間隔で３～４回葉面散布する。			

農薬の使用方法や注意事項はラベルで確認する

キャベツ

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除 防除時期	RACコード	薬剤
10 モンシロチョウ （アオムシ）	1.育苗床では防虫ネット（４㎜目合以下）で被覆する。 2.幼虫は見つけしだい捕殺する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** ●若齢幼虫期 1.モスピランＳＬ液剤、顆粒水溶剤はコナガにも登録がある。 2.パダンＳＧ水溶剤を夏季高温時の苗や軟弱な苗に対して使用する場合は薬害を生じるおそれがあるので、このような苗には使用しない。	播種覆土後～育苗期後半	28･4A	（混）ミネクトデュオ粒剤
		育苗期後半	4A	アクタラ粒剤５
			4A	ダントツ粒剤
		定植時	4A	モスピラン粒剤
		育苗期後半～定植当日	28	プレバソン粒剤
			28	プレバソンフロアブル５
			28	ベリマークＳＣ
			28	ヨーバルフロアブル
			28･4A	（混）アベイル粒剤
			28･4A	（混）ジュリボフロアブル
		定植３日前～定植当日	4A･5	（混）ガードナーフロアブル
		定植前日～定植当日	4A	モスピラン粒剤
		定植前日～定植時	28･4A	（混）キックオフ顆粒水和剤
			4A	アルバリン顆粒水溶剤
			4A	スタークル顆粒水溶剤
		定植時	1B	オルトラン粒剤
			1B	ジェイエース粒剤
			4A	ダントツ粒剤
			4A	アルバリン粒剤
			4A	スタークル粒剤
			28･4A	（混）ミネクトデュオ粒剤
		若齢幼虫期	1B	オルトラン水和剤
			1B	ジェイエース水溶剤
			4A	モスピランＳＬ液剤
			4A	モスピラン顆粒水溶剤
			4E	フィールドマストフロアブル
			5	スピノエース顆粒水和剤
			6	アファーム乳剤
			6	アニキ乳剤
			11A	トアロー水和剤ＣＴ
			11A	トアローフロアブルＣＴ
			11A	バシレックス水和剤
			11A	ゼンターリ顆粒水和剤
			11A	デルフィン顆粒水和剤
			11A	エスマルクＤＦ
			11A	フローバックＤＦ
			11A	エコマスターＢＴ
			11A	チューンアップ顆粒水和剤
			11A	サブリナフロアブル
			11A	ジャックポット顆粒水和剤
			13	コテツフロアブル
			14	リーフガード顆粒水和剤
			14	パダンＳＧ水溶剤
			15	マッチ乳剤
			15	カスケード乳剤
			15	アタブロン乳剤
			18	ロムダンフロアブル
			18	ファルコンフロアブル
			21A	ハチハチ乳剤
			21A	ハチハチフロアブル
			22A	トルネードエースＤＦ
			22A	ファイントリムＤＦ
			22B	アクセルフロアブル
			28	フェニックス顆粒水和剤
			28	フェニックスフロアブル
			28	プレバソンフロアブル５
			28	ヨーバルフロアブル
			28	ベネビアＯＤ
			30	グレーシア乳剤
			30	ブロフレアＳＣ
			34	ファインセーブフロアブル
			UN	プレオフロアブル
			4E･28	（混）フェニックスマストフロアブル
			5･18	（混）ファルコンエースフロアブル
			23･28	（混）ヨーバルターボフロアブル
			28･4A	（混）ジュリボフロアブル
			6･15	（混）アファームエクセラ顆粒水和剤
			21A･22B	（混）アクセルキングフロアブル

キャベツ

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除		
		防除時期	RACコード	薬剤
11 ヨトウムシ	1.育苗床では防虫ネット（4㎜目合以下）で被覆する。 2.卵塊、幼虫集団を見つけたら摘除する。	育苗期後半～定植当日	28	プレバソンフロアブル5
			28	ベリマークSC
			28･4A	(混)ジュリボフロアブル
		定植時	1B	オルトラン粒剤
			1B	ジェイエース粒剤
		若齢幼虫期	1B	オルトラン水和剤
			1B	ジェイエース水溶剤
			5	スピノエース顆粒水和剤
			6	アファーム乳剤
			11A	トアロー水和剤CT
			11A	バシレックス水和剤
			11A	ゼンターリ顆粒水和剤
			11A	エスマルクDF
			11A	フローバックDF
			11A	エコマスターBT
			11A	チューンアップ顆粒水和剤
			11A	サブリナフロアブル
			11A	ジャックポット顆粒水和剤
			13	コテツフロアブル
			15	アタブロン乳剤
			15	マッチ乳剤
			18	ファルコンフロアブル
			22A	トルネードエースDF
			22A	ファイントリムDF
			22B	アクセルフロアブル
			28	フェニックス顆粒水和剤
			28	プレバソンフロアブル5
			28	ヨーバルフロアブル
			28	ベネビアOD
			30	ブロフレアSC
			30	グレーシア乳剤
			UN	プレオフロアブル
			4E･28	(混)フェニックスマストフロアブル
			5･18	(混)ファルコンエースフロアブル
			6･15	(混)アファームエクセラ顆粒水和剤
			21A･22B	(混)アクセルキングフロアブル
			23･28	(混)ヨーバルターボフロアブル
12 タマナギンウワバ	1.育苗床では防虫ネット（4㎜目合以下）で被覆する。 2.幼虫は見つけしだい捕殺する。	育苗期後半～定植当日	28	ベリマークSC
		若齢幼虫期	1B	オルトラン水和剤
			1B	ジェイエース水溶剤
			5	スピノエース顆粒水和剤
			6	アファーム乳剤
			6	アニキ乳剤
			11A	エコマスターBT
			13	コテツフロアブル
			15	アタブロン乳剤
			22A	トルネードエースDF
			22A	ファイントリムDF
			22B	アクセルフロアブル
			28	ヨーバルフロアブル
			28	ベネビアOD
			30	ブロフレアSC
			30	グレーシア乳剤
			UN	プレオフロアブル
			4E･28	(混)フェニックスマストフロアブル
			5･18	(混)ファルコンエースフロアブル
			6･15	(混)アファームエクセラ顆粒水和剤
			21A･22B	(混)アクセルキングフロアブル

キャベツ

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除		
		防除時期	RACコード	薬剤
13 ハスモンヨトウ	1.育苗床では防虫ネット（4㎜目合以下）で被覆する。 2.卵塊、幼虫集団を見つけたら摘除する。	育苗期後半～定植当日	28	プレバソンフロアブル5
			28	ベリマークSC
			28	ヨーバルフロアブル
			28･4A	(混)ジュリボフロアブル
			28･4A	(混)アベイル粒剤
		定植3日前～定植当日	4A･5	(混)ガードナーフロアブル
		若齢幼虫期	1A	デナポン5%ベイト
			4E	フィールドマストフロアブル
			6	アファーム乳剤
			6	アニキ乳剤
			11A	バシレックス水和剤
			11A	ゼンターリ顆粒水和剤
			11A	デルフィン顆粒水和剤
			11A	フローバックDF
			11A	エコマスターBT
			11A	サブリナフロアブル
			11A	ジャックポット顆粒水和剤
			13	コテツフロアブル
			15	アタブロン乳剤
			15	ノーモルト乳剤
			18	ファルコンフロアブル
			22A	トルネードエースDF
			22A	ファイントリムDF
			22B	アクセルベイト
			22B	アクセルフロアブル
			28	フェニックス顆粒水和剤
			28	プレバソンフロアブル5
			28	ヨーバルフロアブル
			28	ベネビアOD
			30	ブロフレアSC
			30	グレーシア乳剤
			UN	プレオフロアブル
			4E･28	(混)フェニックスマストフロアブル
			5･18	(混)ファルコンエースフロアブル
			23･28	(混)ヨーバルターボフロアブル
			28･4A	(混)ジュリボフロアブル
			6･15	(混)アファームエクセラ顆粒水和剤
			21A･22B	(混)アクセルキングフロアブル
14 オオタバコガ	1.育苗床では防虫ネット（4㎜目合以下）で被覆する。 2.幼虫は見つけしだい捕殺する。	若齢幼虫期	6	アニキ乳剤
			11A	トアローフロアブルCT
			11A	ゼンターリ顆粒水和剤
			11A	デルフィン顆粒水和剤
			11A	エスマルクDF
			11A	フローバックDF
			11A	エコマスターBT
			11A	チューンアップ顆粒水和剤
			11A	サブリナフロアブル
			11A	ジャックポット顆粒水和剤
			13	コテツフロアブル
			18	ファルコンフロアブル
			22B	アクセルフロアブル
			28	フェニックス顆粒水和剤
			28	プレバソンフロアブル5
			28	ヨーバルフロアブル
			28	ベネビアOD
			30	グレーシア乳剤
			30	ブロフレアSC
			UN	プレオフロアブル
			21A･22B	(混)アクセルキングフロアブル
			23･28	(混)ヨーバルターボフロアブル
15 シロイチモジヨトウ	1.育苗床では防虫ネット（4㎜目合以下）で被覆する。 2.卵塊、幼虫集団を見つけたら摘除する。	育苗期後半～定植当日	28	ベリマークSC
		発生初期	5	スピノエース顆粒水和剤
			6	アニキ乳剤
			11A	ゼンターリ顆粒水和剤
			13	コテツフロアブル
			18	ロムダンフロアブル
			22A	トルネードエースDF
			28	ヨーバルフロアブル
			28	ベネビアOD
			30	ブロフレアSC
			UN	プレオフロアブル
			4E･28	(混)フェニックスマストフロアブル

キャベツ

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除 防除時期	RACコード	薬剤
16 コナガ	1.紫外線反射資材を用いると、成虫の飛来を軽減することができる。 2.育苗床では防虫ネット（２㎜目合以下）で被覆する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.コナガ対象に使用する場合には、基幹防除剤として発生初期に使用する。 2.コナガは、薬剤抵抗性が発達しやすいので、作用性の異なる他の薬剤と輪番で一作期一回の使用とする。 3.パダンＳＧ水溶剤を夏季高温時の苗や軟弱な苗に対して使用する場合は薬害を生じるおそれがあるので、このような苗には使用しない。	播種前または播種時	4A	アクタラ粒剤５
		播種覆土後～育苗期後半	28･4A	(混)ミネクトデュオ粒剤
		育苗期後半	4A	アクタラ粒剤５
			4A	ダントツ粒剤
		育苗期後半～定植当日	28	ヨーバルフロアブル
			28	ベリマークＳＣ
			4A･28	(混)アベイル粒剤
		定植３日前～定植当日	4A･5	(混)ガードナーフロアブル
		定植時	1B	オルトラン粒剤
			1B	ジェイエース粒剤
			4A	モスピラン粒剤
			4A	アルバリン粒剤
			4A	スタークル粒剤
			4A	ダントツ粒剤
			28･4A	(混)ミネクトデュオ粒剤
		定植前日～定植時	4A	アルバリン顆粒水溶剤
			4A	スタークル顆粒水溶剤
		若齢幼虫期	1B	トクチオン乳剤
			1B	トクチオン粉剤
			4E	フィールドマストフロアブル
			5	スピノエース顆粒水和剤
			6	アファーム乳剤
			6	アニキ乳剤
			11A	トアロー水和剤ＣＴ
			11A	トアローフロアブルＣＴ
			11A	バシレックス水和剤
			11A	ゼンターリ顆粒水和剤
			11A	デルフィン顆粒水和剤
			11A	エスマルクＤＦ
			11A	フローバックＤＦ
			11A	エコマスターＢＴ
			11A	チューンアップ顆粒水和剤
			11A	サブリナフロアブル
			11A	ジャックポット顆粒水和剤
			13	コテツフロアブル
			14	パダンＳＧ水溶剤
			14	エビセクト水和剤
			14	リーフガード顆粒水和剤
			15	ノーモルト乳剤
			15	マッチ乳剤
			15	カスケード乳剤
			15	アタブロン乳剤
			21A	ハチハチ乳剤
			22A	トルネードエースＤＦ
			22A	ファイントリムＤＦ
			28	ヨーバルフロアブル
			28	ベネビアＯＤ
			30	グレーシア乳剤
			30	ブロフレアＳＣ
			34	ファインセーブフロアブル
			UN	プレオフロアブル
			4E･28	(混)フェニックスマストフロアブル
			5･18	(混)ファルコンエースフロアブル
			6･15	(混)アファームエクセラ顆粒水和剤
			21A･22B	(混)アクセルキングフロアブル
			23･28	(混)ヨーバルターボフロアブル

キャベツ

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除		
		防除時期	RACコード	薬剤
17 ネキリムシ類	1.被害株周辺土中の幼虫が潜む穴を見つけ、捕殺する。 2.作付け前の圃場の除草処理を徹底する。	播種または定植時（植付時）	1B	カルホス粉剤
			1B	カルモック
			1B	ネキリエースK
		育苗期後半	4A	ダントツ粒剤
		育苗期後半～定植当日	28	プレバソンフロアブル5
			28	ヨーバルフロアブル
			28	ベリマークSC
		定植時	1B	オルトラン粒剤
		生育初期	3A	ガードベイトA
		定植直後～発生初期	1A	デナポン5%ベイト
			3A	アディオン乳剤
			22B	アクセルベイト
18 ハイマダラノメイガ	1.秋播栽培では早播きしない。 2.育苗床では防虫ネット（2㎜目合以下）で被覆する。 〈薬剤使用の特記事項〉 1.パダンSG水溶剤を夏季高温時の苗や軟弱な苗に対して使用する場合は薬害を生じるおそれがあるので、このような苗には使用しない。 2.トルネードエースDF、フェニックス顆粒水和剤は食害防止効果は速やかに発現するが、殺虫効果は遅効的である。	播種時	4A	ダントツ粒剤
			4A	アクタラ粒剤5
			28･4A	(混)ミネクトデュオ粒剤
		播種時～定植前	2B	プリンス粒剤
		育苗期後半	4A	ダントツ粒剤
			4A	アクタラ粒剤5
		育苗期後半～定植当日	28	ベリマークSC
			28	ヨーバルフロアブル
			28	プレバソン粒剤
			28･4A	(混)ジュリボフロアブル
		定植3日前～定植当日	4A･5	(混)ガードナーフロアブル
		定植前日～定植時	4A	アルバリン顆粒水溶剤
			4A	スタークル顆粒水溶剤
		定植時	4A	ダントツ粒剤
			4A	アクタラ粒剤5
			4A	アルバリン粒剤
			4A	スタークル粒剤
			28･4A	(混)ミネクトデュオ粒剤
		発生初期	4E	フィールドマストフロアブル
			5	スピノエース顆粒水和剤
			6	アファーム乳剤
			6	アニキ乳剤
			11A	エスマルクDF
			11A	フローバックDF
			11A	エコマスターBT
			11A	チューンアップ顆粒水和剤
			13	コテツフロアブル
			14	パダンSG水溶剤
			14	リーフガード顆粒水和剤
			15	マッチ乳剤
			18	ファルコンフロアブル
			21A	ハチハチ乳剤
			21A	ハチハチフロアブル
			22A	トルネードエースDF
			22A	ファイントリムDF
			28	フェニックス顆粒水和剤
			28	プレバソンフロアブル5
			28	ベネビアOD
			28	ヨーバルフロアブル
			30	ブロフレアSC
			30	グレーシア乳剤
			UN	プレオフロアブル
			4E･28	(混)フェニックスマストフロアブル
			5･18	(混)ファルコンエースフロアブル
			28･4A	(混)ジュリボフロアブル
			6･15	(混)アファームエクセラ顆粒水和剤
			21A･22B	(混)アクセルキングフロアブル
			23･28	(混)ヨーバルターボフロアブル

キャベツ

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除 防除時期	RACコード	薬剤
19 アブラムシ類	1.紫外線反射資材を用いると、成虫の飛来を軽減することができる。 2.育苗床では防虫ネット（1㎜目合以下）で被覆する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.ハチハチ乳剤、ハチハチフロアブルはアザミウマ類にも登録がある。 2.パダンＳＧ水溶剤を夏季高温時の苗や軟弱な苗に対して使用する場合は薬害を生じるおそれがあるので、このような苗には使用しない。	播種時	4A	ダントツ粒剤
		播種覆土後 ～育苗期後半	28･4A	(混)ミネクトデュオ粒剤
		育苗期	4A	アルバリン粒剤
			4A	スタークル粒剤
		育苗期後半	4A	ダントツ粒剤
			4A	アクタラ粒剤5
			4A	アクタラ顆粒水溶剤
		育苗期後半 ～定植当日	28	ベリマークＳＣ
			28･4A	(混)ジュリボフロアブル
		定植3日前 ～定植当日	4A･5	(混)ガードナーフロアブル
		定植前日 ～定植時	4A	アルバリン顆粒水溶剤
			4A	スタークル顆粒水溶剤
			28･4A	(混)キックオフ顆粒水和剤
		定植時	1B	オルトラン粒剤
			1B	ジェイエース粒剤
			4A	アドマイヤー1粒剤
			4A	ダントツ粒剤
			4A	アクタラ粒剤5
			4A	モスピラン粒剤
			4A	アルバリン粒剤
			4A	スタークル粒剤
			28･4A	(混)ミネクトデュオ粒剤
		発生初期	1B	オルトラン水和剤
			1B	ジェイエース水溶剤
			3A	アディオン乳剤
			3A	アグロスリン水和剤
			3A	サイハロン水和剤
			3A	サイハロン乳剤
			3A	スカウト乳剤
			3A	スカウトフロアブル
			3A	テルスター水和剤
			3A	マブリック水和剤20
			3A	トレボン乳剤
			3A	トレボンＥＷ
			4A	アドマイヤーフロアブル
			4A	アドマイヤー顆粒水和剤
			4A	モスピランＳＬ液剤
			4A	モスピラン顆粒水溶剤
			4A	アクタラ顆粒水溶剤
			4A	ダントツ水溶剤
			4A	アルバリン顆粒水溶剤
			4A	スタークル顆粒水溶剤
			4C	トランスフォームフロアブル
			9B	コルト顆粒水和剤
			9D	セフィーナＤＣ
			14	リーフガード顆粒水和剤
			14	パダンＳＧ水溶剤
			21A	ハチハチ乳剤
			21A	ハチハチフロアブル
			23	モベントフロアブル
			3A･1B	ハクサップ水和剤
			3A･15	(混)ビリーブ水和剤
			28･4A	(混)ジュリボフロアブル
			21A･22B	(混)アクセルキングフロアブル
			23･28	(混)ヨーバルターボフロアブル

キャベツ

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除 防除時期	RACコード	薬剤
20 アザミウマ類	**〈薬剤使用の特記事項〉** ●播種時 1.ダントツ粒剤はネギアザミウマでの登録である。 ●発生初期 1.アクセルキングフロアブル、トランスフォームフロアブル、コルト顆粒水和剤はネギアザミウマでの登録である。	播種時	4A	ダントツ粒剤
		育苗期後半 ～定植当日	28 28	ベリマークSC ヨーバルフロアブル
		定植3日前 ～定植当日	4A･5	(混)ガードナーフロアブル
		定植時	1B	オルトラン粒剤
		発生初期	1B 4C 9B 15 28 30 34 34 21A･22B 23･28	オルトラン水和剤 トランスフォームフロアブル コルト顆粒水和剤 カスケード乳剤 ヨーバルフロアブル グレーシア乳剤 ファインセーブフロアブル アベンジャーフロアブル (混)アクセルキングフロアブル (混)ヨーバルターボフロアブル
21 コオロギ ダンゴムシ	1.圃場内及び周辺の雑草や残さ処理を徹底する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.アクセルベイトはコオロギ類に登録がある。	発生初期	1A 22B	デナポン5%ベイト アクセルベイト
22 ナメクジ類	1.見つけしだい摘除する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.ナメクリーン3はカタツムリ類での登録である。 2.パダンSG水溶剤を夏季高温時の苗や軟弱な苗に対して使用する場合は薬害を生じるおそれがあるので、このような苗には使用しない。	発生初期	14 14 － －	パダンSG水溶剤 リーフガード顆粒水和剤 ナメクリーン3 マイキラーL